

ひ ようじん 火の用心



にほん ふゆ よるひとびとよ
日本では、冬の夜、人々が夜まわりをします。

ひ ようじん い まち あるひ
「火の用心」と言いながら、町を歩きます。「火

ようじん
の用心」とは、「火事に注意してください」という

い み
意味です。



よ ひょうしぎ つか
夜まわりでは「拍子木」を使います。



ひょうしぎ かたほう うご かたほう
拍子木は、片方を動かさずに、もう片方をうち

つけます。よ まわりのときは、くび ま も
つけます。夜まわりのときは、首に巻いて持ちま
す。



ひょうしぎ かい ひ ようじん
拍子木を2回たたいてから、「火の用心」とかけ

ごえ ひょうしぎ かい すこ
声をかけて、また拍子木を2回たたきます。少し

じ かん おな
時間をおいてから、また、同じことをくりかえしま
す。

小心火燭



在日本，冬天的晚上人們會進行夜巡。邊喊「小心火燭」邊在街上巡邏。「小心火燭」是「小心不要發生火災」的意思。



夜巡時會使用“響板”。



使用「響板」時，會一方固定，用另一方敲打。夜巡時，會掛在脖子上帶著。



敲 2 次「響板」後，會喊一聲「小心火燭」，然後再敲 2 次。過一段時間後，再重複上面的動作。